

冷却スプレーに起因する火災事例

火災概要

本事例は炎天下の屋外作業後自動車内で体を冷やすため、熱中対策用として市販されている冷却スプレーを体に吹き付けた後、走行中の自動車内でタバコを吸うためにライターの火を点けた瞬間に、自動車内に残っていた冷却スプレーの噴射用ガスに引火し、火傷を負ったものです。

原因概要

出火原因は、密閉された狭い空間内で冷却スプレーを噴射し、冷却スプレー噴射用のガスが充満しているのに気付かず、タバコを吸うためライターの火を点け、火災に至ったものです。

類似事故の防止対策

冷却スプレーが起因となった火災については、過去にも自動車内や部室内等狭い空間で使用し、その後ライターの火で引火、負傷した事例が数件発生しています。

このことは、冷却スプレーの危険性を知らずに火気を使用したもので、市民みなさんは、ペンキ等のスプレーについては引火の危険性が高いと認識していても、冷却スプレーについては、認知度が低かったものと思われる。

熱中症対策用として水に濡らして体を冷やすタオルやスカーフ、瞬間冷却パック等が宣伝販売されていますが、最近では衣類やタオルに吹き付ける冷却スプレーも各メーカーから多数販売されており、今年も7月中旬から猛暑日が続く、節電が叫ばれる中、熱中対策用として冷却スプレーの使用頻度も増加傾向にあると思われる。

同様の火災事例が増えることも十分考えられます。ワンルームマンション内等の密閉された狭い室内で、食事準備や給湯器等の火気取り扱い中に冷却スプレーを使用し、コンロ等の火で引火する事例も考えられるため、使用者されるかたは、スプレー缶に記載されている注意書きをよく読み事故防止に努めて頂きますようお願いいたします。

- ①炎や火気の近くで使用しないこと。
- ②火気を使用している室内で大量に使用しないこと。
- ③高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所や火気等の近くなど温度が40度以上となる所に置かないこと。
- ④火の中に入れてないこと。
- ⑤使い切って捨てること。

※殆どのスプレー缶には同様の注意書きが記載されています。

……スプレーを噴射する際は、火気には十分注意して下さい。……

…火災が発生した場合は、直ぐに消防(119)へ通報してください。…

